

第10回 理事会

日 時：令和5年1月19日(木)13:00~16:00

場 所：学会事務局(Web会議併用)

出席者：長田会長(議長)、清水副会長、北田副会長、末永常務理事、稲垣、大谷、小俣、笠、佐々木、竹村、徳永、長谷川(淳)、平野、升元、三好、村上、和田 各理事、野村、緒方各監事

欠席者：池見、太田、大津、西山、長谷川(信)、林、船山、三田村各理事

(理事25名中17名出席(過半数)により理事会は成立)

陪席者：熊谷(事務局)

議事内容：

1. 前回議事録の確認

- ・令和4年12月21日開催の令和4年度第9回理事会の議事録案について、承認した。

2. 審議事項

1) 会員状況の確認

- ・事務局長から1月19日時点における会員状況について説明があった。
- ・1月19日現在、正会員1,827名、学生会員50名、名誉会員65名となり、総数は1,942名であることを確認した。

2) 会費減免適用申請について

- ・常務理事より、標記の説明があり審議の結果、届出のあった1名の会員について、定款第7条③項の一および規則第34条⑤項の三に該当し、令和5年度の1年間の会費を減免することを承認した。

3) 防災学術連携体「関東大震災100年企画」冊子への寄稿について

- ・常務理事より、標記の説明があり審議の結果、本学会から「関東大震災100年企画」に対して寄稿することとなった。
- ・過去、東日本大震災10年の際に寄稿した原稿を参照し、本学会のこれまでの取り組みを紹介する文章を作成するとともに、災害地質研究部会において地盤工学会内で作成予定の原稿のうち、応用地質学的なテーマに絞った内容の文章を組み込むことを検討することとなった。
- ・稲垣理事より、来年度研究発表会で「応用地質学から見た関東大震災100年(仮題)」について特別セッションに応募することを検討していることが紹介された。

3. 本部からの報告事項

1) 収支状況

- ・事務局長より、標記の説明がなされ、令和4年12月の収支について、概ね例年通りの状況であることが確認された。

- ・事務局長より、令和5年度の本部収支予算案について説明があり、令和5年3月中の確定に向け、予算案に計上を希望するものがある場合には熊谷事務局長に連絡することとなった。これに関連し、現在、将来構想検討特別委員会で検討されているアウトリーチ活動について、支出可能な予算を計上してはどうかとの意見が出された。

2) 令和5年度総会・シンポジウムの準備状況について

- ・常務理事より、標記の説明がなされ、令和5年度総会・シンポジウムは6月16日、東京大学柏キャンパスで開催される予定となったことを確認した。
- ・北田副会長、和田理事よりシンポジウム特別講演の演者に関する準備状況について説明があった。特定の演者への交渉はもとより、代替の演者についても並行して検討を進めていくことを確認した。
- ・シンポジウムの参加費や会場について、特別講演の検討と合わせ、理事会の場で検討していくこととなった。

3) アクションプラン2023-2024について

- ・常務理事より説明がなされ、次回理事会までに令和4年度事業報告案を作成した上で、令和3年度事業報告と合わせてアクションプラン2021-2022の総括文書を作成すること、この総括文書に基づきアクションプラン2023-2024を作成していくことを確認した。

4) 共催・協賛・後援等の依頼の応諾に関する規程の最終版について

- ・常務理事より説明があり、最終版を確認した。

5) 「地震火山噴火次期観測研究計画」アンケートへの回答について

- ・常務理事より説明があり、昨年12月27日に提出した回答内容を確認した。

6) 「協力学術団体の男女共同参画に関する活動調査」への回答について

- ・常務理事より説明があり、1月12日に提出した回答内容を確認した。今後フィードバックがあれば、理事会で確認していくこととなった。

7) 日本地球惑星科学連合参加学協会臨時学協会長会議について

- ・常務理事より説明がなされ、今回は学協会への情報共有であること、日本学術会議の声明への対応については今後理事会で議論する必要があることが確認された。3月23日に連絡会議があるとの紹介があった。

8) 日本学術会議への科学者の推薦について

- ・常務理事より説明がなされ、本学会から千木良雅弘元会長、徳永朋祥理事、吉田英一元中部支部長の3

名が候補者として推薦されたことを確認した。

9)「高山国道事務所管内防災対策検討会」への委員の推薦について

- ・常務理事より説明がなされ、中部支部において、支部顧問の米田茂夫会員を委員として推薦したことが報告された。

10)他学協会からの依頼について

- ・常務理事より、原子力発電環境整備機構からの転載許可申請、名古屋国際見本市委員会「第11回中部ライフガードTEC2023～防災・減災・危機管理展～」への協賛名義使用申請、日本工学会「第4回世界エンジニアリングデー記念シンポジウム」への協賛名義使用申請について、説明があり、総務委員会で転載ならびに協賛名義使用を許可したことを確認した。
- ・新たに制定された「共催・協賛・後援等の依頼の応諾に関する規程」に基づけば、今回の協賛名義使用申請は後援の依頼に該当するため、今後は後援名義使用として許可するよう運用することとなった。

4. 各委員会・支部・研究部会・小委員会からの報告事項

1)総務委員会

- ・1月17日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・常務理事より、総務委員会内での協議事項として「ダイバーシティ委員会(仮称)の名称決定と常置委員会への改組に伴う規則・規程類の改定」が挙げられ、現在の検討状況が紹介された。今後、ダイバーシティ推進特別委員会での議論を踏まえ、ダイバーシティ委員会(仮称)の名称案を含め、総務委員会・理事会で議論していくことを確認した。

2)国際委員会

- ・1月13日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・常務理事より、現状で行われている議論としてはIAEG役員改選(2026年)、IAEG Japan NG代表、ARC(IAEGアジア地域会議)などが挙げられることが紹介された。

3)研究企画委員会

- ・担当理事より、2月9日開催予定の先端技術ワークショップについて、広く会員に参加いただきたいとの呼びかけがあった。

4)東北支部

- ・担当理事より、東北支部で5月19日に土砂災害講習会を計画していること、来年度研究発表会の懇親会として当初よりも参加費が低額の会場を確保したこと、見学会は男鹿半島となることが報告された。

5)土木地質研究部会

- ・担当理事より、昨年12月22日に開催された土木地質研究部会のミニ講習会の開催報告がなされた。最終

的には67名の参加者があったとのことであった。

6)将来構想検討特別委員会

- ・1月16日開催の委員会議事録案が提出された。
- ・常務理事より、現在検討されている内容の紹介があり、各活動方策について着地を考えアクションプランに反映してはどうかとの意見が出された。

5. その他